

中山間地向け早生大豆新奨励品種「おおすず」

福島県農業試験場 種芸部・会津支場・相馬支場
平成13年度～14年度大豆奨励品種決定調査成績書
分類コード 02-05-01040000

部門名 普通畑作物―大豆―品種―生理・生態

担当者 丹治克男・二瓶直登・齋藤弘文・渡部 隆・齋藤正明・大谷裕行

I 新技術の解説

1 要旨

(1) 「おおすず」は「スズユタカ」に比べ、次のような特性を持つ(表1)。

ア 開花期は5日程度早く、成熟期は9日程度早い「早」である。耐倒伏性は「スズユタカ」より優る「強」である。

イ 子実収量は「スズユタカ」並であり、子実成分の含有量は、蛋白・脂肪とも「中」である。

ウ ウイルス抵抗性はABを持ち、センチュウ抵抗性・立枯病抵抗性・紫斑病抵抗性はいずれも「弱」で、耐病性は「弱」である。

(2) 豆腐加工適性は良好である。

2 期待される効果

(1) 大豆栽培可能地域が広がることにより、新しい大豆産地の形成が期待される。また、中山間地の大豆の品質向上および生産の安定化がはかれる。

(2) 本県中山間地でも、コンバイン体系による大豆栽培が可能となる。

3 適用範囲

ウイルス病抵抗性が弱いので、標高400mから650mの中山間地とする。

4 普及上の留意点

(1) モザイク病ウイルスの抵抗性が弱いので、平坦地では作付けしない。

(2) シストセンチュウ抵抗性が弱いので、連作を避ける。

(3) 紫斑病等の病害虫抵抗性は弱いので、必要な防除を的確に実施する。

(4) 品質確保のため、収穫は適期に行う。

(5) 排水対策等、作付生産基盤の整備を行う。

II 具体的データ等

品種名	だいた「おおすず」				組合せ	刈交296 F 6/10 路297号	
特 性	長所 1 早生 2 大粒で多収 3 豆腐加工適性・煮豆加工適性 ともに高い				短所 1 ウイルス病抵抗性・ダイズシスト センチュウ抵抗性が弱 2 短茎		
普及目標面積	会津山間地域および阿武隈山間地域(標高400～650m) 400 ha						
調 査 地	福島県農業試験場				福島県農業試験場 冷害試験地		田島町 現 地
	標 播		晩 播				
品 種 名	おおすず	スズユタカ	おおすず	スズユタカ	おおすず	スズユタカ	おおすず
開花期 (月日)	7/26	7/31	8/12	8/16	8/1	8/6	7/25
成熟期 (月日)	10/6	10/15	10/19	10/21	10/4	10/14	10/5
主茎長 (cm)	55	73	49	61	57	70	64
主茎節数(節)	19.9	15.1	12.1	19.0	19.1	14.4	14.1
分枝数 (本)	4.6	5.2	3.6	2.9	3.5	4.1	5.5
粒実数粒(莢/本)	66.8	70.4	65.9	68.0	40.2	60.9	70.6
倒 伏	微	少	微	少	微	少	無
全 重 (kg/a)	69.1	71.7	55.6	65.7	61.2	59.6	98.2
子実重 (kg/a)	31.9	30.4	25.8	30.7	16.9	19.2	24.2
同左比 (%)	105	100	85	100	88	100	
百粒重 (g)	39.9	27.2	34.1	24.9	39.5	24.1	32.6
障害粒の 程度(%)	紫斑粒	2.0	1.0	1.4	0.7	7.6	4.3
	褐斑粒	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
	裂皮粒	1.7	5.1	0.5	1.3	1.5	0.2
品 質	上の下	上の下	上の中	上の中	上の下	上の中	上の中
試験年次	平成5年、13～14年		平成13～14年		平成13～14年		平成13～14年

表2 豆腐の官能評価結果(平成8年青森県産子実、工社)

品種名	外観	色	味						テクスチャー			総合評価
			臭い	コク	甘み	渋み	青臭み	不快味	硬さ	弾力性	滑らかさ	
おおすず	-0.05	0.16	0.11	0.93	0.33	-0.18	-0.05	-0.05	0.11	0.00	0.00	0.36
オクシロメ	-0.05	0.22	0.11	0.72	0.77	-0.11	-0.16	-0.05	-0.33	-0.11	0.05	0.61
スズカリ	-0.05	0.33	0.11	0.77	0.72	-0.16	0.00	0.00	-0.27	-0.11	0.11	0.57

備考: コク・甘みはプラス評価表示、渋み・青臭み・不快味はマイナス評価項目。
硬さ: 硬い(+2)～柔らかい(-2)、弾力性: 強い(+2)～弱い(-2)。
上記以外の項目: 良い(+2)、やや良い(+1)、普通(0)、やや悪い(-1)、悪い(-2)。

Ⅲ その他

1 執筆者

丹治克男・佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし